

2022年度
入学試験問題

国語

2月1日 午後

受験番号	氏名

中村中学校

問題は次のページからです。

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) ビルのオクジヨウから景色を見下ろす。
- (2) 品質のカンリをしつかりとする。
- (3) 兄は外国語にセイツウしている。
- (4) 落ち着いたシツソな生活を心がける。
- (5) 敵に勝つためにサクリヤクをめぐらす。
- (6) その考えはセケンとずれている。
- (7) 会議を開く場所をテイキヨウする。
- (8) 終わった月のカレンダーをヤブる。
- (9) 教室の広さをハカってみよう。
- (10) トランプをみんなにクバる。

【二】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

新型コロナウイルスの感染を避け、私たちがいのちを守るために大切にしなければならぬと悟らされたのは、密閉、密集、密接の三密を避けるということです。新型コロナウイルス感染症禍の中で、私たち人間は“三密”を避ける行動を実践しました。

この言葉は、二〇二〇年の流行語大賞に選ばれました。

a、毎年、年の暮れには、その年を象徴する漢字一文字が発表され、京都市東山区にある清水寺の貫主によって揮毫されるのですが、二〇二〇年は、“密”という文字になりました。

植物に目を向けてみると、植物はそもそも“密”を絶対に避ける生き方をしているのです。ここでは、“三密”を避けて、いのちを守り暮らしている三つの事象を紹介し

ます。

① 一つ目は、空間における“密”を避けることについてです。まず発芽という現象についてです。

植物には、カタバミやハウセンカのように、自分でタネを飛ばすものがあります。タンポポやモミジのように、風に乗せてタネを遠くへ運ばせるものもあります。オナモミやイノコズチのように、動物のからだにくっついて移動するものもあります。軽いタネは、そのようにしてまき散らすことができます。

これは、植物たちが、生育地を広げるとともに、発芽するときの“密”の状態を避けるためです。タネが移動しなければ、親のそばでつくられたタネが、“密”の状態で発芽しなければなりません。

b、カキやビワのように、木にできる重いタネは、容易に移動することができません。そのまま親のまわりに落ちて、“密”の状態になります。そうならないために、

動物にタネを広い範囲はんいにまき散らしてもらうことは、重い
タネをつくる植物たちにとって大切なのです。

ですから、果実をつくる植物たちは、「動物に果実を食
べてほしい」と思っているはずです。そのために、おいし
い果実を準備するのです。タネができあがったところに、お
いしそうな色になって、動物に食べてもらえるように「も
うおいしくなっているよ」とアピールするのです。

私たちが、植物を栽培さいばいする場合も、「密」を避けます。

c、同じ種類の植物を栽培するときには、小さいタ
ネなら、一カ所に多くがまかれます。発芽してくると、小
さい芽生えが「密」になります。

そのまま、「密」の状態では、芽生えが育つはずはあり
ません。光や水や養分などの奪うばい合いがおこるからです。
そこで、元気に育ちそうな芽生えを残し、他の芽生えを抜ぬ
いて、「密」の状態を解消します。この作業は、「間引き」
といわれます。

45

40

I

私たちは、植物を栽培する場合、一定の面積であれば、
栽培できる本数は、経験的に知っています。ですから、そ
れに合わせて、栽培する株の本数を決めます。そのため、
タネをまく場合には、「何センチメートル離はなしてまきなさい
い」とか、苗なえを植える場合には、「何センチメートル離し
て植えなさい」とかいわれるのです。

II

ところが、せっかく栽培するのだから、「同じ面積に、
たとえば、四倍の本数の株を栽培すれば、四倍の収穫量しゅくりょう
が得られるだろうか」と欲張ったことを考えることもあり
ます。四倍の収穫量を得るために、すべての芽生えにまん
べんなく光が当たるようにし、水も養分も不足しないよう
にして、育ててみます。

植物が芽生えのときには、すべての芽生えに光を当てる
ことは可能かもしれませんが、しかし、芽生えが成長し、葉

60

つばが大きくなると、密に隣り合わせになった株は、陰ができてしまいます。また、上に水や養分が十分にあったとしても、根が伸びて隣の株の根と、水や養分の奪い合いがおこります。

III

その結果、生き残る株の本数は減ります。もし、すべての株が何とか成長したとしても、各個体の葉や根、茎や幹の成長が抑えられます。また、生産されるタネの数が減ります。その結果、すべての株が枯れずに育ったとしても、収穫量は四倍にはなりません。

四倍の芽生えを苦勞して育てたとしても、四分の一の芽生えの本数でりつばに育った場合と、ほぼ収穫量は同じになるのです。一定の面積で、得られる葉や根、茎や幹、生産できるタネの数などは、ほぼ一定になるように決まっています。

IV

65

これは、植物たちが自分で、“密”の状態を避けるために間引きを行っている現象であり、「自己間引き」とよべれます。自然の中では、植物たちは、この方法で、一定の面積で育つ個体数を調整します。

④二つ目は、ハチやチョウを誘う競争においての“密”を避ける工夫です。植物たちにとっては、子ども（タネ）をつくるための相手に、花粉を運んでくれるのは、主にハチやチョウなどの虫なのです。そのため、植物たちは、花の中にハチやチョウを誘い込まなければなりません。そこで、多くの花は、美しい色で装い、いい香りを放ち、おいしい蜜を準備して、懸命にハチやチョウを誘い込む努力をします。

もし、すべての植物が同じ季節にいつせいに花を咲かせたら、花粉を運んでくれるハチやチョウを誘い込む競争はとてつもなく激しくなります。これは、“密”の状態です。

そこで、植物たちは、他の種類の植物と、開花する月日

を少し「ずらす」という知恵ちえをはたらかせます。多くの植物が花を「密」に咲かせるのを避けるためです。これを人間が観察して表したものが、「花ごよみ」です。 95

花ごよみは、各月ごとに、どのような草花や樹木が花を咲かせるかが記述されたものです。たとえば、春に咲くサクラ、コブシ、ボケ、ハナミズキ、フジ、ツツジなども、同じ地域で少しずつ、開花の時期がずれています。開花の時期を少しずつずらして「密」の状態を避けているので。 100

そうはいつても、同じ季節や同じ月日に、多くの植物が開花します。すると、ハチヤチヨウなどを誘い込む競争が激しくなります。そこで、植物たちは種類ごとに、「月日」だけではなく、開花する「時刻」もずらすという知恵を思いつきました。 105

たとえば、アサガオは、夏の朝早くに、花を咲かせます。この植物は、季節だけでなく、時刻もずらして、「密」を

避けているのです。他の花がまだ咲いていない時刻なら、ハチヤチヨウを誘い込みやすいからです。 110

夏の夕方遅くおそに咲くツキミソウ、夜一〇時ころに咲くゲツカビジンなども、同様の作戦で「密」を避けて生き残ろうとしています。私たち人間でいえば、

 でしょう。 115

三つ目は、生育する葉っぱが時期をずらすことです。たとえば、秋に花を咲かせるヒガンバナです。この植物は、太陽の光の奪い合いをやめて「密」を避けています。

多くの植物は、花が咲けば、タネができます。タネをつくるための栄養は、葉っぱが作ります。だから、植物では、花が咲く前に葉っぱが出て、その葉っぱが光合成で栄養をつくり、そのあと花が咲いて、タネができるというのが、ふつうの順序です。 120

ですから、多くの植物では、花が咲いているときに、葉っぱがあります。でも、ヒガンバナでは、秋に真っ赤な花 125

を咲かせるとき、葉っぱが見当たりません。不思議なことに、葉っぱが存在しないのです。

この植物の葉っぱは、花がしおれてしまったあとに、細く目立たない姿で生えてきます。冬になると、野や畑の畦あぜなどには、細くて長く、少し厚みをもった淡い緑色をしたヒガンバナの葉っぱが、何本も株の中央から伸び出てきて

茂しげります。

「なぜ、寒い冬に、ヒガンバナはわざわざ葉っぱを茂らせるのか」と不思議に思えますが、冬には、多くの植物が枯れています。ですから、冬の野や畑の畦で葉っぱを茂らせ

ていると、他の植物たちと生育するための土地を奪い合う必要がないのです。生育地での“密”を避けているのです。

冬に茂ったヒガンバナの葉っぱは、四月から五月に、暖かくなつて他の植物たちの葉っぱが茂り出すころ、枯れてすっきり姿を消します。そのあと、葉っぱがつくつた栄養を使つて秋に花が咲くのです。ヒガンバナは、多くの植物

たちが姿を消す冬に葉っぱを茂らすことで、他の植物たちと生育する土地を奪い合う競争を避け、“密”の状態を逃

れているのです。

ヒガンバナは、こう⑤した術すべを身につけて、他者と“密”になつてする競争を避けてきたのです。

(田中修『植物のいのち』中央公論新社)

※貫主……寺の長を指す役職。

※揮毫……毛筆で文字や絵を書くこと。

問一 a c の空らんらんに当てはまる組み合わせ

として適当なものを、次から選びなさい。

- | | | | | | |
|------|------|---|------|---|------|
| ア、 a | そして | b | しかし | c | たとえば |
| イ、 a | しかし | b | たとえば | c | そして |
| ウ、 a | たとえば | b | そして | c | しかし |
| エ、 a | そして | b | たとえば | c | しかし |

問二

—— 線①とありますが、それぞれ植物は密を避けるために、どのような方法で移動しますか。次の空らん(A)・(B)に当てはまるように、それぞれ説明しなさい。

軽いタネ

・カタバミやハウセンカ

↓ () A

() 方法。

・タンポポやモミジ

↓ () B

() 方法。

・オナモミやイノコズチ

↓ 動物のからだにくっついて移動する方法。

重いタネ

・カキやビワ

↓ 動物に食べてもらい移動する方法。

問三

—— 線②、③とありますが、そのような結果になるのはなぜですか。地面の上で起こっていることと、地面の下で起こっていることに分けて、それぞれ理由を説明しなさい。

問四

—— 線④とありますが、この競争における植物の工夫は、どのようなものですか。本文中の言葉を使って、二十字以内で説明しなさい。

問五

X

に当てはまる例として、適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、ちこくを避けるために早くねて、規則正しい生活を送るようなもの

イ、朝の通勤ラッシュを避けて、時差出勤するようなもの

ウ、人と同じ服を避けるために、独特なデザインを選ぶようなもの

エ、きれいな食べ物を避けて、好きな食べ物ばかり食べるようなもの

問六

——線⑤とありますが、どのような術ですか。

本文中から二十三字でぬき出しなさい。

問七

次の文章は、本文中からぬき出したものです。

I

く

IV

のどの部分に入りますか。記号で答えなさい。

間引きによる“密”の状態の解消は、植物たち自身で行われることもあります。ある種類の植物が“密”の状態で生育をはじめると、光や水や養分などの奪い合いの生存競争がおこります。その結果、競争に敗れた個体は、生育が悪くなって、やがて枯死していきま

問八 次のア～オについて、本文の内容として適当なものにはA、適当でないものにはBを解答らんに記入しなさい。

ア、植物のおかげで私たちは、新型コロナウイルスの感染予防対策として、三密を避けることの大切さを知ることができた。

イ、植物は、発芽や成長の仕方です夫を繰り返し、競争にたえ、種の保存のために日々変化している。

ウ、人が次から次へと花を楽しむ「花ごよみ」も、植物からみると生き残るためのたくみな工夫がかくされている。

エ、人間に栽培してもらい、広い範囲に生息できるようにするため、植物たちは、美しい色やよい香りを放つ。

オ、植物は、他のものの力を借りて、生育地を広げているが、実はそれは、長い年月をかけて、植物が生み出した知恵である。

問九 この文章には、植物の様々な工夫について書かれてありましたが、あなたは、この文章から何を学びましたか。また、それをどのように生かしていきたいと思えますか。あなたの考えを書きなさい。

③ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

車いすメーカー社員二年目の山路百花は、親友で車いすテニスプレーヤーである君島宝良のために競技用車いすを作りたいという夢があった。だが、パラリンピック代表候補になった宝良とは反対に、成長できていない自分にあせりを感じていた。そこで上司である小田切に相談して、初めてお客さんと面談することになった。

梅雨が続いていたある日。バスケットボール用車いすを求めて、小学五年生の佐山みちるが母とともにやってきた。彼女とのやりとりから本当は彼女自身がそれを求めていることがわかった。それにもかかわらず、百花はみちるの母の言うとおりに注文を受けようとした。そこを小田切が間に入り、注文を断った。

以下はみちるたちを見送った後、小田切が百花に改めて話し始める場面である。

① 無数の銀色の糸が天から垂れてくるように雨は降り続く。気温が低下して肌寒いほどだったが、百花は身動きせず小田切の声を聞いていた。

「佐山さんと電話で話をした時、何となく危うい印象を受けた。明るく快活^aなのだが、自分の本心を隠^{かく}すためにそうしているように感じた。それにみちるくらいの年頃^{としごろ}の子供は、みんなと同じになりたがる子のほうが多いものだ。集団の中で自分だけ異質になつてつまはじきに^bされることを恐^{おそ}れる。そうでなくともみちるは車いすユーザーになつて、いやが上にも周囲の子供たちと自分の違^{ちが}いを意識せざるを得ない状況^{じょうきょう}だ。それがこの上バスケ用車いすなんてである意味かなり目立つものを手に入れて、それを学校で使いたいと考えるか疑問だった。ただ、おまえは良くも悪くも性根^{しょうね}が素直^{すなお}だ。人に言われたことは真剣^{しんけん}に受け取るし、俺^{おれ}が話すことは頭^{こぶ}に留める程度^{ほど}にしておけと言っても無理だろう。面談の前に変な先入観^{せんしゅかん}は持たせないほうがいいと思

つて、おまえには佐山さんについて懸念けねんしたことは話さな
かった」

ただ、それでも小田切は予防線を張るようくり返し注
意していた。みちるの本当まことの気持ちを聞き、理解しろと。 20
そして、バスケット用車いすを作つてほしいというクライアン
トと会うというのに、車いすを作らずに対応する方法ばか
りを提案した。

「ただの考えすぎかもしれない俺の心配を話さなくても、
おまえならちゃんとみちるの思いを汲くみとるだろうと思つ
た。おまえは人に寄り添よそうことを知っている。寄り添つた
上でどうすべきかと考えることを知っている。だからも
し、車いすをほしがっているのが実のところみちるではな
く、娘むすめのために何かしたいという思いに駆かられすぎて娘
の本当の気持ちが見えなくなっている母親だったとして 30
も、おまえはちゃんと気づくだろうと思つた。——そし
ておまえは気づいたよな」

小田切の目に正面から捉とらえられ、呼吸こどくが止まる。恐れと
やましきから鼓動こどくが加速し、手先が冷えて、気を抜ぬけば目
をそらしそうになるのを百花は必死にこらえた。 35

「気づいていたよな？ だからおまえは母親を抑おさえて、み
ちると話そうともした。それなのに、どうしてだ？ どう
してあそこで採寸に進もうとした？ 俺が止めなければ、
おまえは母親の言うまま車いすを作るつもりだったのか？
みちる本人が望んでない、彼女の両親には数十万円もの負
担たんを強しいる車いすを？ 誰だれにとつてものちのち重荷にしか
ならない車いすを？」

消えてしまいたい。自分の心臓を止めてしまいたい。す
みません、と口走りかけて、百花は唇くちびるを噛かみしめた。そ
れは違う。絶対に違う。それは今のこの窒息ちっそくしそうな時間
から逃にげ出すための上うわつ面つらの言葉でしかない。

「どうしてだ、山路」
「……みちるちゃんが、作つてほしいと——」

「そうだな。けどそれはみちるが母親に引きずられて言っているだけで本心じゃないということも、おまえは気づいていたように俺には見えた。違うのか？」

何も言えなかった。手が冷たくて、それなのに顔と心臓のあたりだけは熱い。

いつもなら厳しい語気で叱り飛ばす小田切が、今は静かな目でこちらを見ている。静かで、かなしい目だ。きつとその目に名前をつけるなら、A だった。

「どうしてだ」

くり返されるその言葉が、直視したくない自分の心をこじ開ける。醜みにくすぎて隠しておきたかったものを、決して失望されなくなかった人に見せざるを得なくなる。

「……失敗、したく、ありませんでした——」

鼻の奥おくが熱く痛んで、声がかすれた。

「車くるまいすを、作らないほうがいいと言ったら、佐山さんはきつと怒おこると思って——わたしには手に負えなく、なっ

60

て——クライアントを怒らせたら、どう、なるのか……主任に助けてもらわないと、いけなくなったり、もつと会社に迷惑めいわく、かけたりするんじゃないかと……そうやって失敗したら、使えないやつだと、思われたら、もう、営業設計の仕事は、させてもらえなくなるかもしれない、思いました。だから、みちるちゃんがこう言うんだから、作ればいって、思いました——」

④ 自分の薄汚うすぎたなさに耐たえられなくなり、深くうつむいた。目の奥にこみあげるものは必死こどろで堪えた。それだけはだ

めだ。自分を守るためだけに謝罪を口にするよりなお悪い。

「おまえ、組立ての仕事についた時、うれしそうにやってたな。本当にうれしそうに」

雨音と同じほど静かに、低い声が降る。

「俺おれは後輩こうはいの面倒めんどうを見るようなことが得意こ得意じゃないし、男所帯おとこぢりひに一人でとびこんできた女子をどうすればいいのか

75

よくわからなくて、正直最初は持て余してた。でもおまえを見ていて大丈夫だいじょうぶだと思うようになった。作業を覚えるのに多少時間はかかるし、時たまけがするから目が離はなせないところはあるが、おまえはいつでも車いすに対して愚直ぐちよくなくらい真剣で、だから大丈夫だと思ってたんだ」

85

⑤ 数分前までならうれしい言葉だっただろう。でも今はただ、痛い。

「そんなおまえが突然とつぜん、営業設計の仕事がしたいと言いついた。それはいい。何も悪いことじゃない。けど、おまえがそう考えるようになったのは、君島選手が東京パラリンピックの代表になるかもしれないからか？」

⑥ ぱん、と頬ほおを叩たたかれた心地こころだった。

⑥ 地中深くに押し隠おかくしていたものを掘り出した人は、何もかも見通しているようになしげな目で続ける。

「ユーザーと関わる仕事をしたいのは、エンジニアとして彼女と関わりたいからか？ おまえが車いすを作る理由

95

は、まだ君島宝良のままか？ 失敗なんて当たり前の最初の仕事でそんなに失敗を怖こわがるくらい、営業設計になれないことで彼女と関われなくなることをそこまで恐れるくらい、おまえはまだ君島宝良から動けないのか」

100

頬を、止め切れなかった生ぬるい水が伝いおちていくのを感じた。小田切はかなしみとどこかしさを入り混じらせた目をしながら、鉈なたで断たつように言った。

「夢を追って仕事をするのはいい。だが夢のためにクライアントを利用するな。それが誰であろうと、目の前にいるたったひとりのために、自分が持つてるすべてをさし出して寄り添ってやれない人間は、エンジニアにはなれない」

105

⑦ 工場もとに戻れ。

⑦ きびすを返した小田切は、雨が降っているのに車寄せの屋根の下から出て、外から工場に向かうルートを歩いていく。

110

百花は立ちつくしたまま、いつまでも動くことができない

かった。

(阿部暁子『パラ・スター〈Side 百花〉』)

集英社)

※クライアント……お客さん

※営業設計……お客さんとの面談と車いすの設計を一人で
行う業務

問一 —— 線①とありますが、ここで用いられている表

現技法は何ですか。次から一つ選び、記号で答えな
さい。

- ア、擬人法 ぎじん
- イ、直喩法 ちよくゆ
- ウ、反復法
- エ、対句法 ついく

問二 —— 線 a、b、c の意味をそれぞれ後から一つずつ

選び、記号で答えなさい。

a 快活

ア、誰もしないようなことを、思い切ってやってのける様子。

イ、厳しくて、相手のことを考えることが全くない様子。

ウ、言動がきびきびしていて、人に好感をあたえる様子。

エ、よごれたところが少しもなく、きれいな様子。

b つまはじき

ア、仲間外れ

イ、お客様あつかい

ウ、いじめっ子

エ、にくまれ役

c 先入観

ア、歴史を重んじた見方

イ、しばられない自由な見方

ウ、当初から思いこんだ見方

エ、先人が作ってきた見方

問三 ——— 線②とありますが、それはなぜですか。次か

ら一つ選び、記号で答えなさい。

ア、降りしきる雨の中、体は冷え、長い間小田切の話
を聞かされていたところ、急に質問されておどろ
いたから。

イ、みちるの本当の気持ちを分かっていたのにくみ取
ろうとしなかったことを、小田切に見ぬかれてい
たから。

ウ、娘の本当の気持ちが見えなくなっている母親に気
づいていたのに、手をさしのべなかったから。

エ、みちるの車いすがほしいという気持ちにまったく
気づかなかつたことを、小田切に気づかれたから。

問五 A に当てはまる二字の熟語を本文中からぬき出

して答えなさい。

問六 ——— 線④について、

(1) 「目の奥にこみあげるもの」とは具体的に何です
か。答えなさい。

(2) なぜ(1)で答えたものの方が謝罪するよりも「悪
い」のですか。三十字以上三十五字以内で答えな
さい。

問七 ——— 線⑤とありますが、それは何の後だったから

ですか。四十字以内で答えなさい。

問四 ——— 線③とありますが、このような体の状態はど

のような心境から生じたものですか。これより前の
本文中から七字でぬき出して答えなさい。

問八 ——— 線⑥について、

(1) それと同じ内容の言葉を本文中から十五字でぬき出しなさい。

(2) それは何のことですか。解答らんに当てはまるように ——— 線⑥の後の文章から十六字でぬき出しなさい。

問九

——— 線⑦とありますが、このような行動をとった小田切の気持ちを説明したもので当てはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、百花に対して厳しく言いすぎた。
- イ、熱くなりすぎた自分を冷まそう。
- ウ、百花についてきてほしくない。
- エ、雨が少しやんできたので大丈夫だ。

問十

本文の構成を説明した次の文のうち適当なものにはA、適当でないものにはBを解答らんに記入しなさい。

- ア、主人公の気持ちに読者が寄り添いやすくするため、地の文においても百花の語りで描かれている。
- イ、所々で雨の様子を取り入れることで百花の気持ちや小田切の声の大きさなどを感覚的に表している。
- ウ、会話文に「……」や「———」をたくさん用いることでテンポよく読みやすいように工夫している。
- エ、小田切の言葉とそれに対する百花の反応がセットになり、徐々に百花が追いつめられる様子が描かれている。